

スーパーマーケット景気動向調査

2019年6月調査結果（5月実績）
（2019年6月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DI 見通し判断はやや改善も、前月水準で推移

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+0.1の45.1、見通し判断は前月から+0.8の43.6となり、共に小幅ながら2ヵ月連続で改善をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に小幅に上昇したものの、マイナス圏での推移となった。青果の相場が前年並み回復したことで生鮮仕入原価DIが3.0、食品に値上げが相次いでいる食品仕入原価DIは6.6と共にプラス圏で推移していることが支えとなった。来客数は、GW期間の帰省客の恩恵を受けた店舗と来客数減少となった店舗にわかれた。

カテゴリー動向調査では、青果相場の回復により青果DIが-4.2までマイナス幅を縮小したほか、好天により行楽需要が伸びた惣菜DIが4.6とプラスになった。また気温の上昇により涼味商材の動きがよかった日配DIもやや持ちなおした。ただし、GW明けは消費が低迷したため全般的に伸び悩んだ。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査には大きな動きはみられず、前月水準内での動きとなった。ただし、昨年10月以降の悪化から小幅ながら3ヵ月連続で改善したことで、短中期トレンドはわずかに上向き転換をみせた。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

GWが異例の10連休となり、消費者の動きの予測が難しく、来客数に大きな影響を受けた店舗もみられた。一方で新元号祝賀ムードの高まりによる恩恵もみられた。近年、商品動向が、健康報道や社会の“ムード”から受ける影響も年々大きくなっている。天候や気温差に配慮するだけでなく、休日の過ごし方や消費者心理を予測できるかどうかが重要となっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：45.1 (+0.1) 前月：45.0	消費者購買意欲DI 当月：44.6 (-0.7) 前月：45.3	周辺地域 競合状況DI 当月：41.2 (-1.0) 前月：42.2	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：45.3 (-0.1) 前月：45.4
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：43.6 (+0.8) 前月：42.8	消費者購買意欲DI 当月：43.8 (-0.1) 前月：43.9	周辺地域 競合状況DI 当月：40.7 (-0.6) 前月：41.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：44.7 (+0.1) 前月：44.6
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-7.8 (+2.4) 前月：-10.2	客単価DI 当月：-0.6 (-2.8) 前月：2.2	来客数DI 当月：-10.0 (+3.6) 前月：-13.6	
収益DI 当月：-9.1 (+1.5) 前月：-10.6	販売価格DI 当月：4.6 (±0) 前月：4.6	生鮮品仕入原価DI 当月：3.0 (+0.7) 前月：2.3	食品仕入原価DI 当月：6.6 (-0.3) 前月：6.9

カテゴリー動向

青果DI 当月：-4.7 (+3.4) 前月：-8.1	水産DI 当月：-4.0 (-3.3) 前月：-0.7	畜産DI 当月：-11.5 (-2.8) 前月：-8.7	
惣菜DI 当月：4.6 (+3.6) 前月：1.0	日配DI 当月：-6.3 (+3.6) 前月：-9.9	一般食品DI 当月：-7.6 (-2.4) 前月：-5.2	非食品DI 当月：-6.8 (+6.7) 前月：-13.5

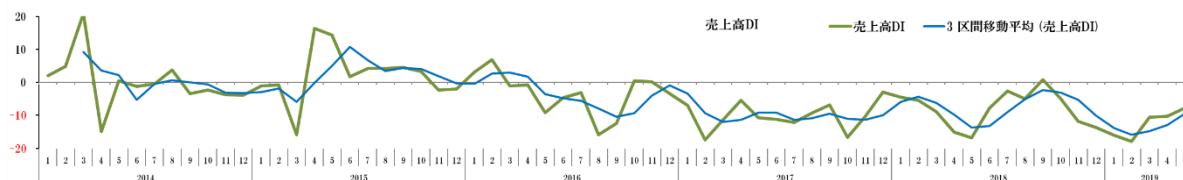
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

6月調査（5月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2014年1月～）

1. 売上高DI

マイナス幅を縮小も、低迷づく

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	11.3	40.3	27.4	19.9	1.1	-10.2
売上高（当月）	11.2	34.1	30.2	24.0	0.6	-7.8



2. 収益DI

マイナス幅をやや縮小も、低迷つづく

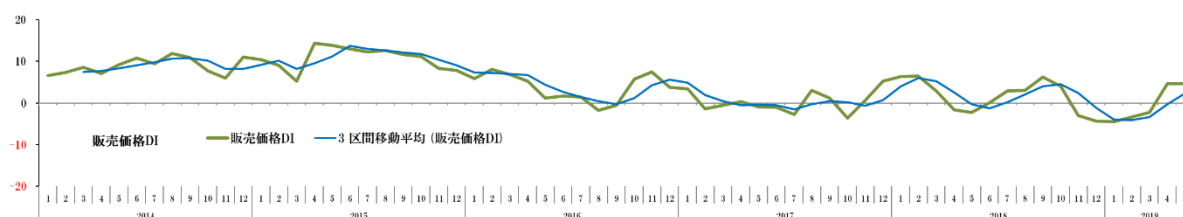
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	10.5	39.8	33.1	14.9	1.7	-10.6
収益（当月）	11.4	37.5	29.0	20.5	1.7	-9.1



3. 販売価格DI

前月から同水準を維持し、プラス圏での推移

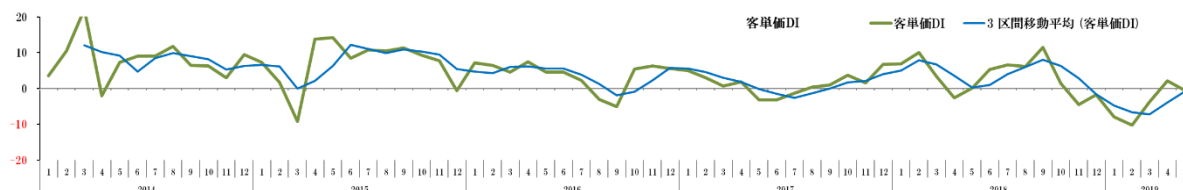
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	11.4	58.9	29.7	0.0	4.6
販売価格（当月）	0.0	10.6	60.6	28.9	0.0	4.6



4. 客単価DI

小幅に低下し、マイナス圏に

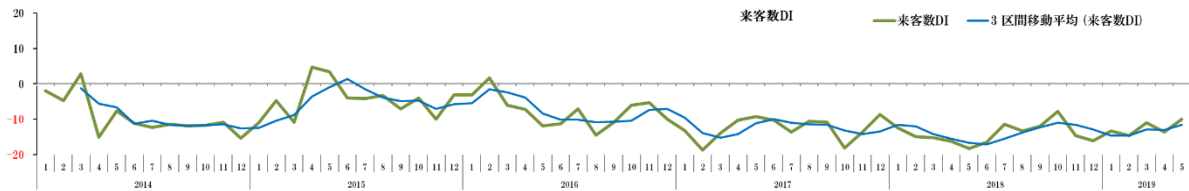
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.1	23.8	41.6	32.4	1.1	2.2
客単価（当月）	1.1	27.2	45.6	25.0	1.1	-0.6



5. 来客数 DI

やや上昇するも、マイナス圏で低迷つづく

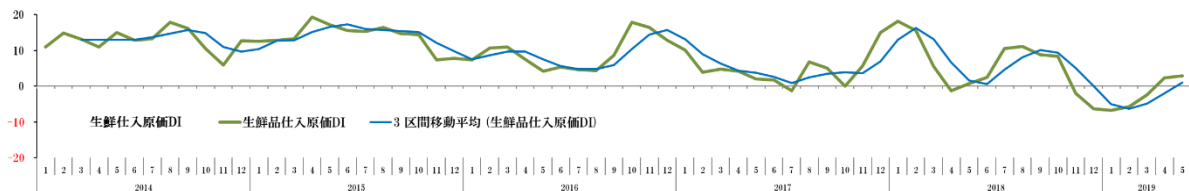
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	10.3	50.0	25.5	12.0	2.2	-13.6
来客数 (当月)	9.4	42.8	27.2	19.4	1.1	-10.0



6. 生鮮仕入原価 DI

やや上昇し、2か月連続でプラス圏維持

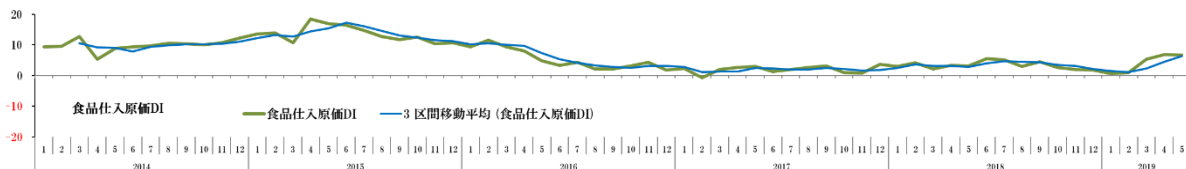
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.2	14.2	57.9	23.5	2.2	2.3
生鮮仕入原価 (当月)	1.7	11.9	61.0	23.7	1.7	3.0



7. 食品仕入原価 DI

前月から同水準を維持し、プラス圏での推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.7	8.7	48.9	37.5	2.2	6.9
食品仕入原価 (当月)	1.7	9.6	50.8	36.2	1.7	6.6

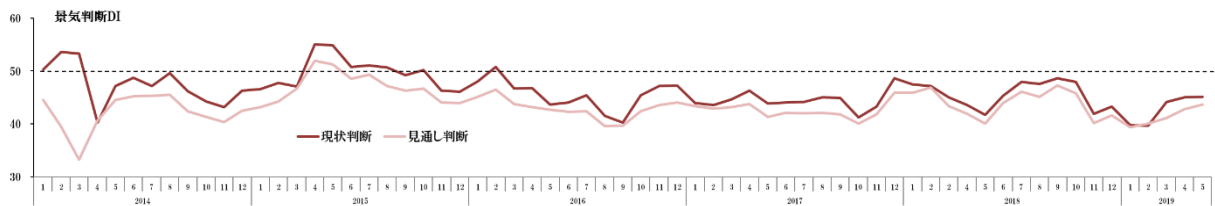


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

見通し判断は、小幅な改善をみせる

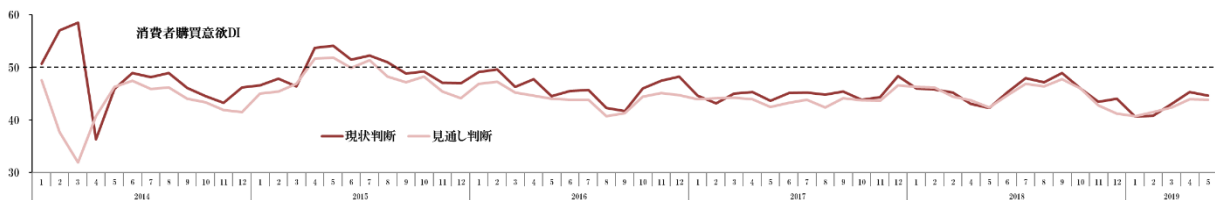
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	2.7	25.3	61.3	10.8	0.0	45.0
【現状】景気判断 (当月)	3.9	24.6	59.2	11.7	0.6	45.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	4.3	28.1	59.5	8.1	0.0	42.8
【見通し】景気判断 (当月)	5.1	24.9	61.0	8.5	0.6	43.6



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月と同水準で推移

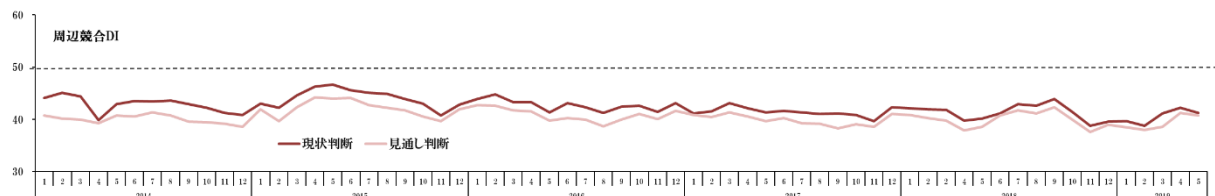
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.2	22.6	67.2	8.1	0.0	45.3
【現状】購買意欲 (当月)	3.3	22.8	66.1	7.8	0.0	44.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.2	26.5	64.9	6.5	0.0	43.9
【見通し】購買意欲 (当月)	2.8	24.2	68.0	5.1	0.0	43.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共にやや悪化

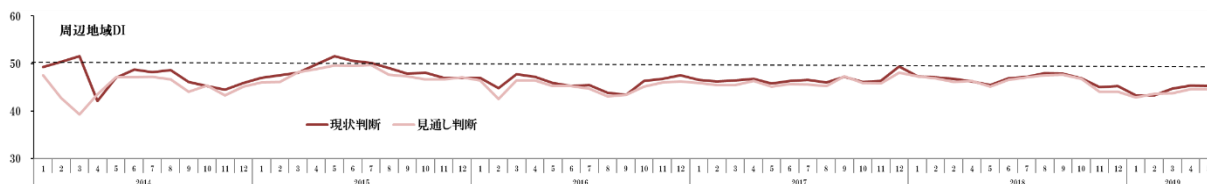
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	5.4	23.7	67.7	3.2	0.0	42.2
【現状】競合状況 (当月)	7.8	24.0	63.7	4.5	0.0	41.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.5	25.3	65.1	3.2	0.0	41.3
【見通し】競合状況 (当月)	7.9	24.2	65.2	2.8	0.0	40.7



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に前月と同水準で推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	19.1	78.7	1.6	0.0	45.4
【現状】地域景気 (当月)	0.6	21.7	73.9	3.9	0.0	45.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.1	21.2	76.1	1.6	0.0	44.6
【見通し】地域景気 (当月)	0.6	23.6	72.5	3.4	0.0	44.7



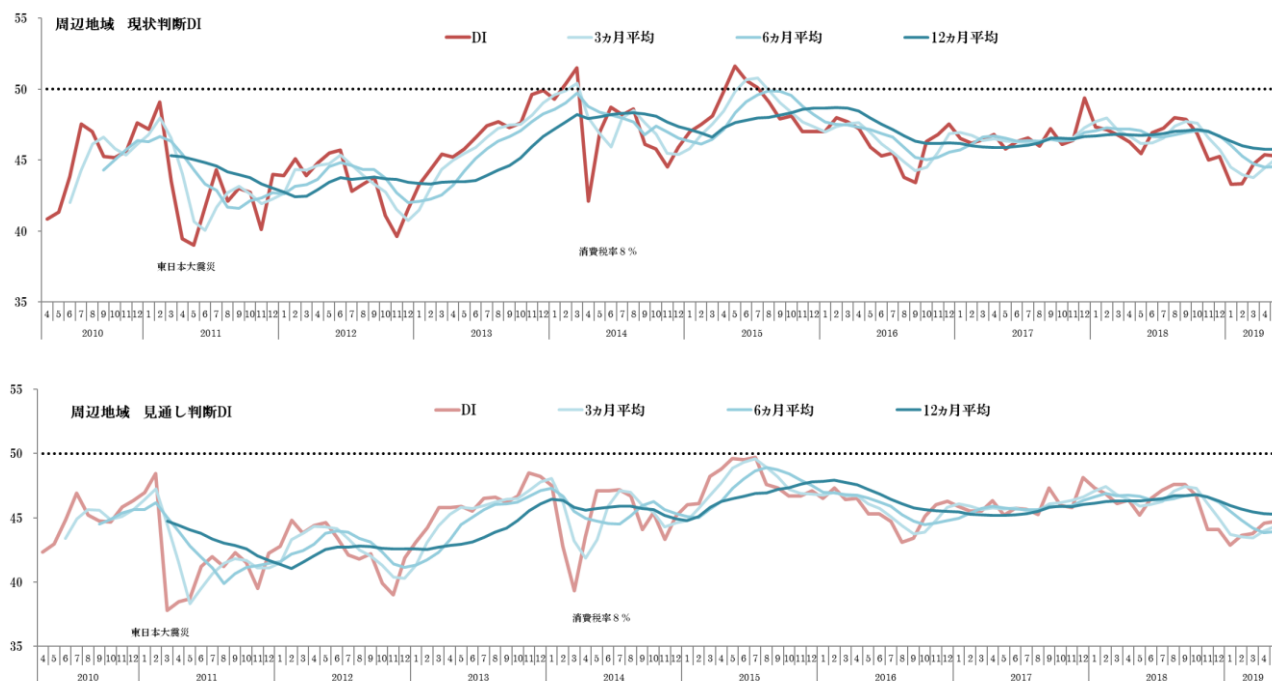
※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。

14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。

しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は持ち直し改善傾向が続いた。

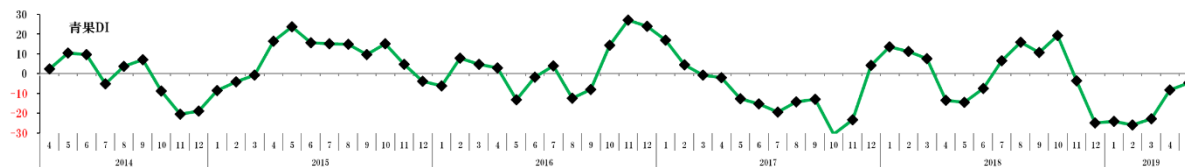
10月から再び悪化幅を広げ、11月にはすべての移動平均線がマイナス方向に転換し、以降弱含みの推移が続いた。3月以降は小幅ながらやや持ち直しの動きを続けている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-4.7（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果(前月)	12.4	33.1	31.5	20.8	2.2	-8.1
青果(当月)	9.9	32.7	26.3	28.1	2.9	-4.7

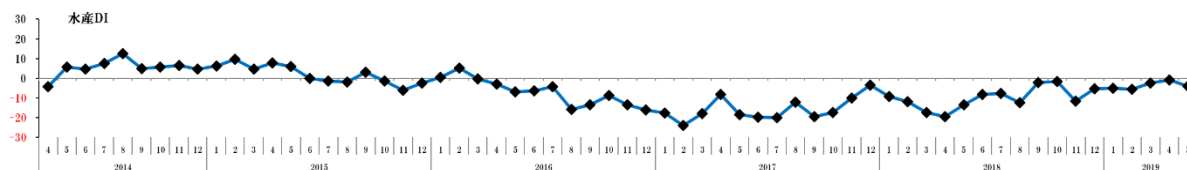


青果相場は前年並みに戻りつつあり、カテゴリー全体としてやや持ち直し傾向が続いている。

気温の高い日が多くなった地域では、トマトやキュウリなどのサラダ類やねぎやしょうがなどの薬味類が好調とのコメントが多い。引き続き、春物の豆類（グリーンピース・スナップエンドウ）や菌類の動きがよい。産直や地場野菜の取り組みが成果をあげているとのコメントが多い。果物類はすいかやキウイフルーツは好調だが、相場の高いバナナは不調となった店舗が多い。

2. 水産DI：-4.0（やや不調）

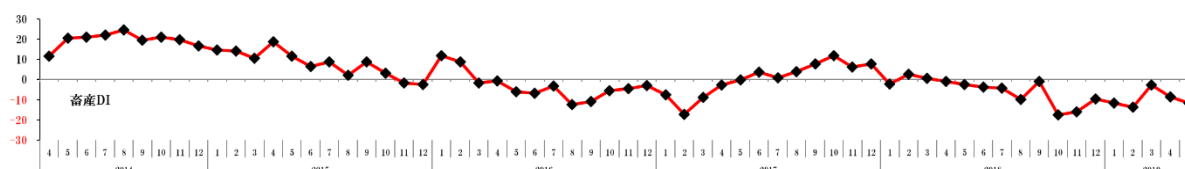
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産(前月)	8.4	26.4	29.8	30.3	5.1	-0.7
水産(当月)	8.2	32.4	28.8	28.2	2.4	-4.0



GW 期間中はまぐろを中心に大型の刺身盛り合わせや冷凍エビなどの動きがよかった一方で、干物を中心に塩干類は動きが悪かった。イカ類は不漁により入荷不足と価格高騰で大きく落ち込んだ。メディア報道のあっためかぶなど海藻類が好調となった。かつおはアニサキス報道の影響がみられ、販売方法を工夫する店舗がみられた。

3. 畜産DI：-11.5（不調）

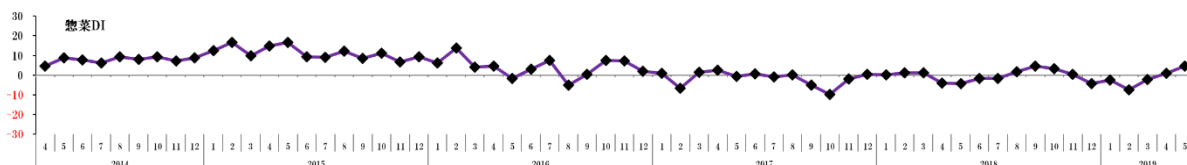
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産(前月)	11.2	34.8	32.6	20.2	1.1	-8.7
畜産(当月)	11.1	43.9	25.7	18.7	0.6	-11.5



GW 期間中は、新元号の祝いムードも重なり、高単価商品が好調となった一方で、輸入肉は不調となった。牛肉は気温の上昇や好天による行楽需要でステーキ・焼肉用の動きがよかったが、うす切り肉は苦戦した。豚肉は国産相場がやや高騰しており、不調とする店舗が多い。鶏肉は相場安となっており、単価が下落しやや不調となった。ハムやソーセージなどの加工肉は価格競争の厳しさが加わり不調とする店舗が多い。GW に客数減少した店舗では影響を受けて全体的に伸び悩んだ。

4. 惣菜DI：4.6（やや好調）

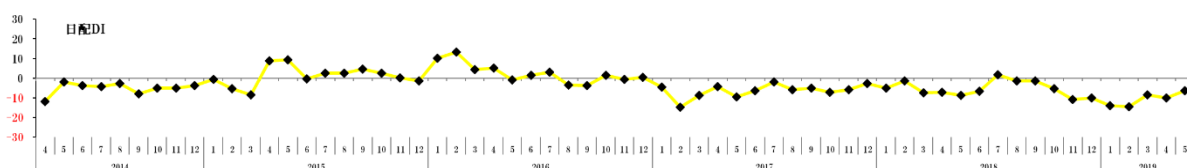
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	6.3	23.3	36.9	27.3	6.3	1.0
惣菜（当月）	5.4	15.0	41.9	31.1	6.6	4.6



天候に恵まれた地域が多く、弁当やおにぎりなどの米飯類や寿司類、からあげ、おつまみなどが好調に推移した。気温が高く涼味関連の動きもよかった。GW 中は新元号のお祝い需要で寿司や赤飯、ローストビーフなどが好調となった。出来立ての提供やバイキング形式での販売などが新たな取り組みが成果をあげる一方で、人手不足により十分対応できないことへの不安もみられた。GW に客数減少した店舗では影響を受けて全体的に伸び悩んだ。

5. 日配DI：-6.3（やや不調）

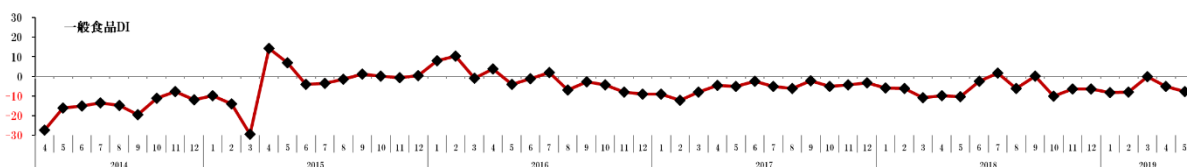
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	11.3	36.7	33.3	17.5	1.1	-9.9
日配（当月）	9.4	31.8	35.3	21.8	1.8	-6.3



特に気温が高くなった地域では、アイスや飲料など涼味系商品、豆腐やところてんなど和日配の動きがよかった。一方で価格改定のあった乳製品やパン類などの洋日配カテゴリーは不調となった店舗が多かった。健康報道により好調だった納豆や漬物には一服感もみられはじめた。GW に客数減少した店舗では影響を受けて全体的に伸び悩んだ。

6. 一般食品：-7.6（やや不調）

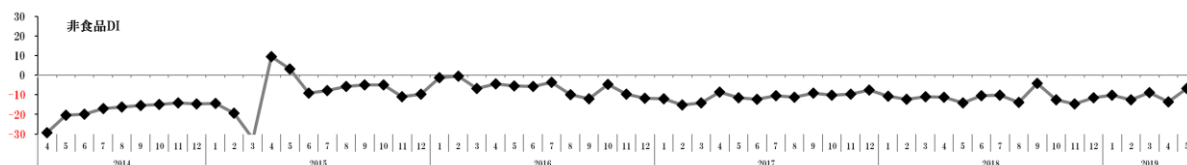
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	7.8	30.2	39.1	20.7	2.2	-5.2
一般食品（当月）	9.3	34.3	35.5	19.2	1.7	-7.6



GW 期間中や行楽需要の高まった地域の店舗ではビールなどの酒類が好調となった。気温の上昇により熱中症対策飲料や素麺関連は好調となった一方で、スープ類やコーヒー類、菓子類の落ち込みが大きかった。また米類は価格訴求が激しくなっており、不調となった店舗が多かった。調味料は全般的に動きが悪い。一部店舗では乾麺に次月の値上げを控えて駆け込み需要もみられた。梅の出荷時期のずれにより酢や砂糖の販売に影響がみられた。ドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争の厳しさへの指摘が目立った。

7. 非食品 DI：-6.8（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	14.5	39.5	33.1	11.0	1.7	-13.5
非食品（当月）	8.3	31.0	43.5	14.3	3.0	-6.8



品薄状態となっている紙類が在庫を確保できた店舗では好調となった。気温の上昇により殺虫剤や熱中症対策商品が好調となった。電子タバコの売上が堅調であるとのコメントが多い。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調 ： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2019年6月調査（5月実績）キーワード TOP3

1. GW 期間（来客数に地域差大きい、祝賀ムード）
2. 天候要因（気温上昇、好天）
3. GW 後の消費低迷

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 180社
 4月実績確報版 186社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp